パブリック・コメントの実施結果について

件 名：第3期小値賀町子ども・子育て支援事業計画【素案】

担 当：小値賀町福祉事務所福祉係

意見の募集期間：令和7年2月5日（水）から令和7年2月20日（木）

意見提出件数：4名16件

※同様の意見は整理したうえで、一つとしているものがあります

※個人が特定できると判断した情報は除いています

意見の内容と町の考え方

掲載ページ：P3、P46

1. 子ども・子育て委員について

会議に参加できる「子どもの保護者」の一般公募をお願いできませんか？

また、議会傍聴や教育委員会傍聴のように開かれた場に、いつでも関心を持った時に誰でも参加できるようにしていただきたいです。（会議の報告を公開する）

質問や意見も随時受け付けていただけると有難いです。

子育て中である当事者たちが、人任せにせずに、しっかりと関わっていける状況があれば、より小値賀町民にとって必要な支援ができるのではないかと思います。

ご検討のほどよろしくお願いします。

ちなみに資料のP3に「公募委員」とあるので、どのような形で公募されたのでしょうか？

周りの人も知らないと言っていたので、広報不足ではないかと思います。改善のほどよろしくお願いします。

※同様の意見あり

【回答】

現在の委員につきましては、令和6年5月初旬に各団体やPTA等の保護者の代表者に対して、団体内での委員の推薦という形をお願いをして、推薦いただいた方に就任いただいています。団体内での推薦の方法（公募等）については、団体のやり方にお任せしていたため、町から公募についての広報はしていない状況となります。

会議を開かれた場にすること、委員の一般公募の実施、会議の参加については、ご意見として令和7年度以降の会議運営の参考とさせていただきます。

掲載ページ：P9

2. 第二期子ども子育て支援事業計画の評価及び課題の整理について

③3号認定（0～2歳）

令和6年度は0歳児の受け入れが保育士不足のためにできてなかったため、「現在の整備状況で受け皿が確保できている状態」とは言えないかと思えます。令和7年度4月以降も0歳児の受け入れができないようなので、早急な対策（保育士採用）が必要だと思えます。

子ども園に入れなかった家庭で、仕事をしている家庭が、ぴよぴよ広場や民間の一時預かり事業者などに子どもの一時預かりを利用する場合は、利用料免除なども検討し、年度内に実施していただきかったです。おそらく来年度も0歳児受け入れができないため、引き続き、子ども園に入れない家庭への対応も検討いただきたいと思えます。（子ども誰でも通園事業は令和8年度以降なので）

※同様の意見あり

【回答】

3号認定（0歳～2歳）に関して、定員数を計画値（確保の量）としているため、数値上ではおおむね現在の整備状況で受け皿が確保できている状況と記載しています。

ただし、ご指摘のとおり子ども園では保育士不足により、0歳児の受け入れができていないのが現状で、早急な保育士確保が必須であることはご認識の通りですので、P9の評価と今後の方向性及びP32の確保の方策に追記させていただきます。

町として保育士を確保するために保育施設実習支援事業をはじめとして、保育の仕事合同面談会に出席してアピールするなど、様々な働きかけを行っております。引き続きあらゆる手段を用いて、保育士確保に繋げられればと考えております。

民間を含む一時預かりサービス利用への町の援助については、現状では検討しておらず、ご意見は今後の事業の参考とさせていただきます。

3. 小値賀町子育て世帯保育料軽減事業について

こども園に入園している家庭だけではなく、未就学児を家庭で育てている家庭にも援助することを検討されてみてはいかがでしょうか。こども園に保育士不足が理由で入れなかった家庭に対する援助がないのは、令和5年度までこども園に入園できた家庭との公平性が保てないかと思いません。

例えば、0歳～3歳児を保育園に預ける場合は、2万円程度かかる費用が無料になるので、保育園に預けなくても自宅で子供を見たい家庭もいると思いますし、保育士不足がなかなか解消されないのであれば、保育園に預けずに家で見てもらったほうが良いという見方もあると思います。その場合は、保育園に預ける場合と同じくらいの価格を、自宅で育てている家庭に援助するなどを検討するのはいかがでしょうか。

【回答】

在宅で育児をしている方に対する支援は検討を重ねており、本計画のアンケートとは別のアンケート調査も実施して検討を進めていましたが、ニーズが少ない状況であったため、実施は見送っております。

ご意見は今後の事業の参考とさせていただきます。

掲載ページ：P18

4. 一時預かり事業について

令和6年度はこども園が0歳児受け入れをしていなかったため、子をぴよぴよ広場に一時預かりで、お金を払って預けていましたが、令和7年度以降もぴよぴよ広場での受け入れだけなのか。こども園は令和6年度も一時預かりはNGでした。

ぴよぴよ広場は水木金のみで預かりですし、スタッフ配置により、子供は2名までなので、お願いしたいときに預かれない日もありましたし、実際に実施してみて、保育士の資格を持つスタッフに負担が大きかったようです。

実際、民間の一時預かりサービスを利用するのも検討しましたが、ぴよぴよ広場に比べて高額なので、町の援助などがないと利用しづらいのが現状でした。

※同様の意見あり

【回答】

こども園に関しては、令和7年度においても保育士不足により、0歳児の受け入れができない状況であるため、0歳児の一時預かりはできないものの、ほかの年齢についてはクラスの定員数が満たない場合は対応できる場合もあります。

民間の一時預かりサービス利用への町の援助については、現状では検討しておらず、ご意見は今後の事業の参考とさせていただきます。

こども園の早急な保育士確保が必須であることはご認識の通りです。

町としては、保育士を確保するために保育施設実習支援事業をはじめとして、保育の仕事合同面談会に出席してアピールするなど、様々な働きかけを行っております。引き続きあらゆる手段を用いて、保育士確保に繋がればと考えております。

ぴよぴよ広場における一時預かりについては、元々はこども園の未就園児を対象として想定している事業であり、保育の必要性があるこどもを受け入れることは想定しておらず、現状は、一時預かりを実施できる最低限のスタッフしか配置できていない状況です。

今後も一時預かりを安定して実施するためには、現在の現場スタッフの負担を軽減させる必要がありますので、事業に携わっていただける保育士の方を募集しているところです。

また、ぴよぴよ広場の開催日の増加についても、現場スタッフの意見も聞きながら検討してまいります。現状は保育士、補助の双方についてスタッフが不足しており、随時募集を行っている状況です。

5. ながさきファミリープログラムの推進

長崎県では力を入れているこの事業ですが、小値賀での認知度は低いように思えます。実際に他市町村の事例では、小学校や中学校の授業参観に来られた親御さん向けに、このプログラムを実施し、お互いの子育てについて悩みだけでなく、実践してよかったことなどを情報共有できる場になり、効果もあるとの話もありました。子育て講演会を実施しても、いつも来る人が決まってきたりしている現状もあるため、親御さんの参加率が高い、授業参観の後の保護者会でこういうプログラムを組み込んでみてはいかがでしょうか。

【回答】

小値賀町で本格的に活動開始したのは令和6年度からであり、ご指摘のとおり、まだまだ認知度が低く、実績もわずかという状況です。しかしながらご意見にありますように、ぴよぴよ広場で活用していただいた折にはとても好評でしたので、ぜひ授業参観後の保護者会等で活用していただければと思っております。

これから学校や学年の役員さんと相談しながら進めてまいりたいと思います。

6. 母子健康診査事業

令和6年度から保健師がいないため、乳児相談の際の専門的な相談がしづらいのが現状です。また、娘を出産したときは、1歳までほぼ毎月、健康管理センターで乳児相談や検診をしてもらっていましたが、現在は乳児検診の回数も少なく、子供の成長具合の確認がしづらいです。保健師が常駐していれば、もう少し頻度を高く、乳児検診をしてもらえるのではと思います。早急に保健師の採用をお願いしたいです。

乳幼児検診をきちんと島内で受けられるようにして欲しいです。現状は受けたかったら島外へ行かなければならなかったり、どのようなスケジュールで小児科医を呼んでいるのか分かりませんが、たまに見てもらえるけれど「●ヶ月検診のお知らせ」がいつも実際の月齢と異なります。母子手帳に記載されているように1ヶ月検診からスタートして、1歳までは2ヶ月おきに小児科医に検診してもらいたいです。現状の身体測定だけでは不安です。月一回の小児科受診と連携は難しいのでしょうか？

【回答】

令和6年度は保健部門に保健師が不在ということで、子育てに関わる皆様が悩み等を相談できる場が減少しており、大変ご心配とご迷惑をおかけしております。

保健師の不在をカバーするために、助産師による個別LINE相談や、民間業者による小児科オンライン・助産師オンラインを実施しているところですが、まずは対面で保健師に相談できる体制を整えつつ、常勤の保健師確保に努めていきます。

当町では、乳児・幼児の発達を確認する事業として、小児専門医健診、乳児相談、母子健康診査の事業を実施しております。

小児専門医健診については1歳児健診、1歳6カ月児健診、3歳児健診、5歳児健診を年3回、島外の病院より小児科医を招へいして実施しており、1歳6カ月児健診、3歳児健診については国が実施を定める法定健診となっています。受診時期については、年齢到達後の事業実施のタイミングで案内をしております。(母子保健法において1歳6カ月児健診は「満1歳6カ月を超え満2歳に達しない幼児」、3歳児健診は「満3歳を超え満4歳に達しない幼児」が対象とされています)

乳児相談については、新生児から1歳ごろまでの乳児について、計測と保健師による相談受付を実施しておりますが、令和6年度は専門職の都合に合わせ、昨年度より回数を減らして実施しているところです。

母子健康診査事業健診については、乳児一般健康診査(3~6カ月、9~11か月が目安)について、受診費用の公費負担を行っていますが、島外でしか受診ができない状況ですので、令和7年度より開始する産婦健康診査(産後2週間、産後1か月が目安)と併せて、受診の際の船賃の補助について検討をしています。

診療所では、毎月第4火曜日の午後からを基本として小児科外来を実施しています。

乳幼児健診については、専門医外来の契約により、連携が難しい状況ですが、町としては、月1回の小児科外来時に乳幼児健診が実施できるように関係機関との協議を実施していきたいと考えています。

7. 出産・子育て応援事業

小値賀で妊娠して、出産前まで佐世保の産婦人科に通いましたが通院が大変でした。フェリーだと往復6時間弱かかるのに、健診は早くて5分、待ち時間が1時間近くなることもあり、通院の負担が大きいと感じました。(特に時化の時期につわりと重なると大変です) 知り合いのお母さんたちも通院の負担は大きいとの話をしています。

そこで提案ですが、町立の助産院があれば、佐世保まで通わずに小値賀で妊婦健診などしてもらえるので、妊婦の負担が減るのではないのでしょうか。実際に、出産するのはお母さんたちのそれぞれの地元の産婦人科だったりするので、小値賀の助産院での検査は産前32週くらいまでだと思いますし、初期の段階の血液の検査など難しいのは小値賀でできないとしても、エコーで赤ちゃんの成長の様子を見たりする時期であれば、小値賀でもできるのではと思いました。

島に1つ町立の助産院ができれば、産前の健診での体力的な負担軽減はもちろん、産後のお母さんのフォローも助産師さんがしてくれるので、精神的な負担も減るのではとのことでした。ご検討いただけたらと思います。

【回答】

町立の助産院につきましては、現時点では検討しておりませんが、産後ケア事業等の助産師を活用した事業については、実施の可能性について検討しているところです。

いずれにしましても、まずは、町外から定期的に来町し、事業を実施する助産師の確保について尽力してまいります。

ご意見は今後の事業の参考とさせていただきます。

8. 遊具の集約、総合整備事業

数年前からこの問題が出ていますが、全然進んでいないように感じます。前浜公園や赤浜公園、柳の公園、こども園の上の駐車場スペースなど、老朽化を理由に撤去されたままで、新しい遊具が設置されていないまま、数年が経っているようです。児童の健全な育成のためには、安全に楽しく身体を動かす場所の整備は必要だと思うので、屋外遊具の整備をお願いします。

「屋内児童遊戯施設整備事業」

社協の1階の多目的ホールに、2歳～6歳の子供対象に最近遊ぶスペースもできましたが、もう少し身体を動かせる場所を活用した施設も検討してもらえたらと思います。例えば、クライミングやトランポリンなどを常設できる場所（あわび館や元パチンコ店など）社協の1階は和室&フローリングで、小さい子には良いですが、もう少し大きい年代になると、遊び方も変わりますし、身体を動かして遊べるものがあるとよいのではと思います。

※長崎県内というと、諫早市にある「こどもの城」などは室内施設も充実しています。

屋内児童遊戯施設整備事業について、雨天時に遊べる場所があるのはとても助かります！走り回られて幼児が遊べる遊具が少しあるといいな、と思います。そういった場所の案として、総合体育館をもっと活用できるようにしてもらえたらありがたいです。

【回答】

遊具撤去後の新設については、否定的な意見もあり、本格的な協議ができていないことも設置が進んでいない要因としてありました。しかしながら、本計画により、総合的な整備を目指すものとして、整備する方向性になりましたので、今後場所の選定や設置の考え方等の協議を進めていくように考えております。今回の計画で具体化するよう取り組みます。

屋内遊戯施設につきましては、運用を開始したばかりであるため、ご意見は今後の事業の参考とさせていただきます。

掲載ページ：P30

9. ワークライフバランスについての広報事業

町内ではまだ育児休暇や短時間勤務制度への理解が薄く取得率も低いと思います。役場の職員も取得できる人も少ないようで、それも社内での理解が薄いからなのではと思います。特に男性が取りづらい雰囲気があるのでは。実際に同じ課でも育休や短時間勤務が取得できた人とそうでない人がいるのは不公平だと思います。まずは上司がこの制度を理解して職員がスムーズに取れるような体制作りのためにどうしたらいいのか考える場を作ってほしいと思います。

【回答】

小値賀町役場における育児休業等の取得に関する取り組みにつきましては、第5次小値賀町総合計画にも盛り込み、取り組んでいる最中で具体的には次のとおりです。今後も環境改善のための取り組みを推進し、ワークライフバランスのとれた職場環境を構築します。

- ・所属長や職員全体に向けた、育児休業制度の周知及び育児休業希望者への配慮等に関する啓発
- ・機構改革検討部会（役場内組織）における、育児休業を含む各種休暇が取得できる体制の検討

10. 地域子ども子育て支援事業

小値賀町では町全体を一つの提供区域と考え、子育て支援事業を実施するとのことですが、子ども園、小中学校、高校が一つしかないということが本当の魅力になっているのかが正直疑問です。

ここ数年は、高校から外に出る子も増えていて、小値賀にある高校にもっと魅力や特徴があれば、中学校卒業してもここに通いたいと思うのかなと思うのですが、それが少なくなったのは、こどもの多様性を尊重する親御さんも増えたからでしょうか。

実際に、子供達はこの島の魅力を感じられる学習ができて、島が好きで、いずれ島を一度は出ても、いつかは小値賀に戻って仕事がしたいと思える子どもたちがどれだけいるのでしょうか。大事な幼少期は様々な島ならではの体験をさせたり、義務教育の16年間に島だからこそできることを学び、小値賀の高校だからこそ学べることをもっと力を入れていくほうが良いと思います。

例えば、子供のころから「島」「海」「魚」についてさまざまな体験や学習の中から自然と学んでいたなら、小値賀の高校にさらに専門的に学べる学科があれば、そこに通いたい子も増えるだろうし、外から学びに来たい子もいると思います。(例えば、スキューバダイビングの資格が取れる、船舶免許が取れる、漁師の見習い体験ができる、定置網の漁業体験ができるなど)

小値賀だからこそ！の特化した学びのある場を作ってほしいです。

【回答】

小値賀町教育委員会では、「地域とともにある学校づくり」を目指して、小中高一貫教育、ふるさと留学、高校魅力化に取り組んでいます。ご指摘のとおり高校から島外に出る生徒も多くなってきております。希望する進路のための進学はもちろん、運動での特待生など、その理由は様々かと思いますが、そのことは生徒にとっても保護者にとっても島と本土の距離が近くなってきていることの証であるとも思っております。とはいえ、やはり小値賀の生徒には小値賀の高校に通ってほしいという思いは一緒です。しかしながら北松西高校において普通科に加え専門的な学科の導入は生徒数などの問題から現実的に難しく、仮に専門学科のみとなった場合、生徒の多様性を狭めることにもつながるため、高校では現在の普通科を続けながら、小中高の各学校と連携し社会教育での取り組みや、産業振興部門、観光部門等とも協働し、ご意見にあるような小値賀ならではの体験を地域の皆様のご協力を得ながら進めることができればと考えております。

高校の魅力化は、地域の魅力化であり、地域が学校とともにあり、生徒にとっても、住民にとっても、観光客等にとっても魅力的な島であることが大事なことであり、思っております。

いただいたご意見については、教育委員会だけでなく小値賀町全体のまちづくりにつながるご意見として町全体で進めてまいりたいと思っております。

掲載ページ：P3

11. アンケートの回収率が50%未満で計画を作っているのでしょうか？

子育て世代の意見を本気で聞きたい意思が低いように感じます。回収率が低かったことを伝え、再度LINEや回覧板で回答をお願いしたり、ぴよぴよ広場で（働いていないお母さんが多いので）意見募集の会を開くなど、なにか工夫できたのでは？と思ってしまうます。

※同様の意見あり

【回答】

アンケートの回収率が44.1%となっていることについて、ウェブ回答を可能にしたことを含め、保護者への案内とLINEで回答を依頼するような取り組みはしていましたが、回答を強制できるものではないため、アンケートに回答しないことも回答の一つとして捉え、今回は回答しない意思を持つ保護者がどの程度いるのかを知る機会になりました。

ご意見については今後の参考にさせていただき、保護者に向けて大事なアンケートであることを知ってもらう取り組み等、より多くの意見を取り入れることができるように検討を進めていきます。

掲載ページ：P32～

12. 各サービスの量の見込みと供給可能な量が一部を除いて今後増えないのはなぜでしょうか？P31に見込み量の考え方が記載されていますが、その考え方だと5年間は一定人数のままなのではないでしょうか？総合計画で「こども人口各学年15人」を目標にしていますが、矛盾を感じます。

【回答】

P32を例として説明します。

①量の見込みは、まず総合計画において令和7年度は1学年13.5人、令和11年度は1学年14.0を目標にしていますが、人数の小数点以下は切り上げ、本計画の開始年である令和7年度は14人、計画最終年度である令和11年度も14人と考えて整理しています。

2、3号認定では1学年10名、3号認定ではこども園に入園しない子ども一定数いるため、その人数を4名想定しており、合計1学年14名と考えています。1号認定では5名を見込んでいることで、1学年15名と考えています。

以上のことから総合計画と同様以上になるようになるため、矛盾はしないものと考えて設定しています。

②供給可能な量は、こども園の定員数としていますので、増減はないものとしています。仮に定員以外を供給可能な量と設定すると、計画と定員数で矛盾が生じてしまいます。

そのほかの事業で一定人数としているのは、町の出生数と合わせて、母子手帳交付時や乳児期に小値賀にいない転勤族の人数など事業を利用しない人がいることなどを加味しているため、同様に総合計画との矛盾はしないものと考えています。

掲載ページ：全体

13. 保健師や保育士が足りておらず、本当に一時預かりなどの事業ができるのか疑問です。人材確保のためにそういった専門職の方々が小値賀で働きたいと思えるような施策も必要になってくるのではないのでしょうか。

【回答】

保健師や保育士等の専門職確保につきましては、採用担当部署等と連携しながら、関係機関への相談、各種説明会への参加、求人サイトへの登録、補助金・支援金の広報、短期大学等の養成校と連携した学生へのアピール等を実施しているところです。

そのほか、専門職確保のためにできることを模索して、あらゆる手段を用いていければと考えています。

掲載ページ：P22

14. 「チャイルドシート貸出」のサービスはいつから実施していますか？そういった情報を妊娠してから出産後も聞いたことがありませんでした。（実際には、利用している友人から聞きましたが、私はチャイルドシートを購入した後でした。）チャイルドシートは安いものではないので、お借りできるのはとてもありがたいし、助かる方は大勢いると思います！もっと情報を積極的に発信していただきたいです。

【回答】

平成12年度から事業を実施しています。広報不足はご指摘のとおりと考えています。

チャイルドシートの貸出事業だけではなく、それぞれの事業について積極的に広報するとともに、必要な方が利用できるようにしていきます。

15. 病児・病後時保育事業について、計画では「0」のままとなっていますが、これはなぜでしょうか？この事業は多くの保護者に求められていることのような気がします。ワークライフバランスにもつながると思います。こどもの急な熱などの時に、見てもらえるサービスがあることは、多くの保護者にとって助かることだと思います。もちろんそこまでして働かないと行けないのか？という意見もあると思いますが、こどもの熱の度に休み、通園許可証がもらえないと預けられないとなると、有休も早々に消化し、休み扱いとなり月給が減って大変だ、という意見も聞いたことがあります。こどもが一番大事ですが、お給料が減って生活できなくなるともっと大変です。本当に求められているサービスは何なのか行政と保護者とともに考えて行けたらいいですね。

【回答】

病児・病後児保育については、現状園舎に専用スペースが確保できないこと、常駐する看護師がいないこと、保育士不足により、計画では0としています。

0歳児の受け入れができていない現状では、本来の保育を担う保育士が不足している中で、病児・病後児保育の受け入れ計画をあげるのは現実的な計画ではないという判断をしており、今後必要に応じて実施を検討します。ご意見については、参考とさせていただきます。

掲載ページ：P40

16. 例えば、住民票は小値賀にはなくても、仕事や移住の準備等で長期間小値賀に滞在する親子がいた場合のこども受け皿もあるといいな、と思いました。実際に私の知人でそのサービスを求めている方がいました。

【回答】

こども園では、一時預かり事業において、里帰り等で一時的に町内に在住する祖父母等と同居する児童で、町長が保育を必要と認めた者については預かりが可能となっています。しかし、小値賀町に祖父母等がいない親子で、仕事や移住の準備等で長期間小値賀に滞在する方については、一時預かり事業には該当しないことになります。

ご意見は今後の事業の参考とさせていただきます。